

特集：アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育(TAG)プログラム

TAG パイロットプログラムに参加して —現地の学生との交流について—

玉置 隼也（筑波大学 生物学類 1年）



上の二枚の写真は、今回の研修を行ったマレーシアでとってきた写真です。一枚は、マレーシアというイメージ通りの熱帯雨林の写真です。もう一枚はマレーシアの都市の写真です。熱帯雨林のイメージとは違い高層ビルが立ち並んでいます。空が曇っているように見えるのはアブラヤシのプランテーションの焼き畑によるものです。マレーシアはまさに今発達している国です。ここでは、この国で出会った学生から聞いた話や感じたことを書いていこうと思います。

マレーシアの学生とは英語を使ってコミュニケーションをとりました。多くの授業が英語で行われていて、学生の英語のレベルも日本より高く、コミュニケーションに問題はありませんでした。大学外の一般の人にも癖はあるものの、英語を使うことができ、買い物や道を訪ねたりと困ることは少なかったです。マレーシアの学生はムスリムの方が多く、お祈りはかかさず毎日しているようです。次に多いのは中国系の学生だと思えます。彼らはお酒も飲み、お肉も食べ、宗教色は

濃くないようです。ムスリムの学生は高校までにムスリムの学校でアラビア語を学び、中国系の学生は中国語を学ぶため、中国系の学生は本国生まれでなくても中国語が話せるようでした。彼らはお互いに会話はしますが、主に民族のグループに所属しているように見えました。

マレーシアの学生は本当に親切でフレンドリーでした。授業を聴講した際には、女子学生からサンドウィッチを頂きました。学内や町中を案内して下さった学生もとても親切で、丁寧にいろいろなことを教えてくれました。学内で見知らぬ学生に挨拶をされ、声をかけられることも何度もありました。日本ではなかなかないことなので嬉しく思いました。

案内して頂いた学生は全員女性でしたが、全体的にマレーシアの大学生に女性の割合が多いように感じ理由を尋ねてみると、男性は高校卒業後すぐに就職して家計を助ける人が多いからだそうです。学生の中にも興味のある分野ではなく、就職に有利になるような教科の勉強をしている人が多いそうです。学生のひとりひとりが精一杯努力しているように見えました。私は日本に生まれ恵まれた環境に生きているということを実感しました。それと同時に、甘えることを止め、努力して行こうと奮い立つことができました。

日本に帰る際には、案内をして下さった学生たちが空港まで私たちを見送りにつけて下さいました。本当に良い友達を持ったと思います。最後に彼女らとの集合写真を載せさせていただきます。



Communicated by Yosuke Degawa, Received April 18, 2014.